



デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法

この章は、次の内容で構成されています。

- デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルについて, [on page 1](#)
- 注意事項と制約事項 (3 ページ)
- ファイル システム パラメータのデフォルト設定, [on page 3](#)
- FTP、HTTP、または TFTP 送信元インターフェイスの構成 (3 ページ)
- ディレクトリの操作, [on page 4](#)
- ファイルの使用, [on page 7](#)
- アーカイブ ファイルの操作 (15 ページ)
- SSD の再パーティション化 (18 ページ)
- Tech-Support コマンドの有効化または無効化 (20 ページ)
- テクニカル サポートでブロックされた CLI の表示 (21 ページ)
- ファイル システムの使用例, [on page 22](#)

デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルについて

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルについて説明します。

ファイル システム

ローカル ファイル システムを指定するための構文は、`filesystem:[//modules/]` です。

次の表に、デバイス上で参照可能な各種ファイル システムの説明を示します。

Table 1: ファイル システムの構文の構成要素

ファイル システム名	モジュール	説明
ブートフラッシュ	sup-active sup-local	イメージ ファイル、コンフィギュレーション ファイル、およびその他のファイルを格納するためにアクティブ スーパーバイザ モジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。初期デフォルト ディレクトリは bootflash です。
	sup-standby sup-remote	イメージ ファイル、コンフィギュレーション ファイル、およびその他のファイルを格納するためにスタンバイ スーパーバイザ モジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。
volatile	—	スーパーバイザ モジュールにある、一時的または保留中の変更のために使用される揮発性 RAM (VRAM)。
log	—	ロギング ファイル統計情報を格納する、アクティブ スーパーバイザ上のメモリ。
system	—	実行コンフィギュレーション ファイルを格納するために使用される、スーパーバイザ モジュール上のメモリ。
debug	—	デバッグ ログに使用される、スーパーバイザ モジュール上のメモリ。

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュ メモリ (usb1:、および usb2:) にディレクトリを作成できます。これらのディレクトリ間を移動して、ファイルの保存に使用できます。

ファイル

bootflash:、volatile:、slot0:、usb1:、および usb2: ファイル システムにファイルを作成し、アクセスします。system: filesystem 上のファイルにのみアクセスできます。 **debug logfilecommand** には、log: ファイル システムを使用できます。

FTP、Secure Copy (SCP)、セキュア シェル FTP (SFTP)、および TFTP を使用して、リモートサーバーから nx-os イメージファイルなどのファイルをダウンロードできます。デバイスが SCP サーバーとして動作できるので、外部サーバーからデバイスへファイルをコピーすることもできます。

注意事項と制約事項

デバイスのファイル システム、ディレクトリ、およびファイルの注意事項と制限事項は次のとおりです。

- **show tech-support details** コマンドは、Ctrl+Z を使用して終了できません。代わりに、Ctrl+C を使用してコマンドを終了します。
- 「network-admin」ロールを持つユーザーを利用して、ブートフラッシュ内のファイルを変更します。
- リリース 10.5(1) 以降、想定される設定サイズと一致するように、Nexus 9000 上の SSD パーティション サイズを自動的に検出できます。ブートアップ中に **show logging log** または **show logging nvram** コマンドに情報 syslog が表示され、NX-OS Nexus 9000 が予期しない SSD パーティション分割サイズで起動されたことを示します。

```
%PLATFORM-2-SSD_PARTITION_CHECK: Incorrect <device> partition size detected - please
contact Cisco TAC for additional information
```

ファイル システム パラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイル システム パラメータのデフォルト設定を示します。

Table 2: デフォルトのファイル システム設定

パラメータ	デフォルト
デフォルトファイルシステム	bootflash:

FTP、HTTP、または TFTP 送信元インターフェイスの構成

File Transfer Protocol (FTP)、Hypertext Transfer Protocol (HTTP)、または Trivial File Transfer Protocol (TFTP) の送信元インターフェイスを構成できます。この構成により、コピーパケッ

トを転送する際に、設定した送信元インターフェイスに関連付けられた IP アドレスを使用することができます。

手順の概要

1. **configure terminal**
2. **[no] ip {ftp | http | tftp} source-interface {ethernet slot/port | loopback number}**
3. (任意) **copy running-config startup-config**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例 : <pre>switch# configure terminal switch(config)#</pre>	グローバル設定モードを開始します。
ステップ 2	[no] ip {ftp http tftp} source-interface {ethernet slot/port loopback number} 例 : <pre>switch(config)# ip tftp source-interface ethernet 2/1</pre>	すべての FTP、HTTP、または TFTP パケットの送信元インターフェイスを構成します。
ステップ 3	(任意) copy running-config startup-config 例 : <pre>switch(config)# copy running-config startup-config</pre>	実行コンフィギュレーションを、スタートアップコンフィギュレーションにコピーします。

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する手順を説明します。

カレント ディレクトリの特定

カレント ディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **pwd**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	pwd Example: switch# pwd	カレント ディレクトリの名前を表示します。

カレント ディレクトリの変更

ファイル システムの操作のためカレント ディレクトリを変更できます。初期デフォルト ディレクトリは bootflash: です。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. **cd** {directory | filesystem:[//module/][directory]}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	cd {directory filesystem:[//module/][directory]} Example: switch# cd usb1:	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの作成

bootflash: およびフラッシュ デバイス ファイル システムでディレクトリを作成できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **cd** {directory | filesystem:[//module/][directory]}
3. **mkdir** [filesystem:[//module/]]directory

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) cd { <i>directory</i> <i>filesystem</i> : <i>//module/</i> }[<i>directory</i>]} Example: switch# cd slot0:	新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	mkdir [<i>filesystem</i> : <i>//module/</i>] <i>directory</i> Example: switch# mkdir test	新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **dir** [*directory* | *filesystem*:*//module/*][*directory*]

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	dir [<i>directory</i> <i>filesystem</i> : <i>//module/</i>][<i>directory</i>] Example: switch# dir bootflash:test	ディレクトリの内容を表示します。デフォルト値は、現在の作業ディレクトリです。ファイルシステム名およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイル システムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem* :[/[/*module*/]]*directory*]]
3. **rmdir** [*filesystem* :[/[/*module*/]]*directory*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem</i> :[/[/ <i>module</i> /]] <i>directory</i>]] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [<i>filesystem</i> :[/[/ <i>module</i> /]] <i>directory</i> Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

アクティブスーパーバイザモジュール上のセッションからスタンバイスーパーバイザモジュール（リモート）上のすべてのファイルシステムにアクセスできます。この機能は、アクティブスーパーバイザモジュールにファイルをコピーしたら、同じファイルをスタンバイスーパーバイザモジュール上にも存在させる必要がある場合に役立ちます。アクティブスーパーバイザモジュール上のセッションからスタンバイスーパーバイザモジュール上のファイルシステムにアクセスするには、*filesystem://sup-remote/* または *filesystem://sup-standby/* を使用して、ファイルのパスにスタンバイスーパーバイザモジュールを指定します。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを使用する手順を説明します。

ファイルの移動

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動できます。



Caution

宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

move コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
3. **move** [*filesystem:[//module/][directory /] | directory/*]*source-filename* {*filesystem:[//module/][directory /] | directory/*}[*target-filename*] | *target-filename*}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	move [<i>filesystem:[//module/][directory /] directory/</i>] <i>source-filename</i> { <i>filesystem:[//module/][directory /] directory/</i> }[<i>target-filename</i>] <i>target-filename</i> } Example: switch# move test old_tests/test1	ファイルを移動します。 ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

ファイルのコピー

ファイルのコピーは、同じディレクトリまたは別のディレクトリのいずれかで作成できます。詳細については、『Cisco Nexus 9000 Series NX-OS トラブルシューティング ガイド』を参照してください。



Note **dir** コマンドを使用して、コピー先のファイル システムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [*filesystem:[//module/][directory]*]
3. **copy** [*filesystem:[//module/][directory/] | directory/*]*source-filename* | [*filesystem:[//module/][directory/] | directory/*]*{target-filename}*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/</i>] <i>source-filename</i> [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/</i>] <i>{target-filename}</i> Example: switch# copy test old_tests/test1	ファイルをコピーします。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> の引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

HTTP または HTTPS を使用したファイルのコピー

HTTP または HTTPS を使用して、リモート サーバのファイルのコピーをローカル デバイスに作成できます。



(注) Cisco NX-OS リリース 10.4(3)F 以降、**copy http** または **copy https** コマンドは、Cisco Nexus スイッチで TLS バージョン 1.3 および 1.2 をサポートします。

手順の概要

1. (任意) **pwd**
2. (任意) **dir** [filesystem:[//module/][directory]]
3. **copy https:// username:password@directory/filename bootflash: vrf management**
4. **copy http:// directory/filename bootflash: vrf management**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	(任意) pwd 例 : switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(任意) dir [filesystem:[//module/][directory]] 例 : switch# dir bootflash	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイル システムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy https:// username:password@directory/filename bootflash: vrf management 例 : switch(config)# copy https://username1:pwd1@192.168.0.1/test.txt bootflash: vrf management	https オプションを使用して、指定されたファイルをリモート サーバからローカル デバイスにコピーします。
ステップ 4	copy http:// directory/filename bootflash: vrf management 例 : switch(config)# copy http://192.168.0.1/test.txt bootflash: vrf management	http オプションを使用して、指定されたファイルをリモート サーバからローカル デバイスにコピーします。

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [filesystem:[//module/][directory]]
2. **delete** {filesystem:[//module/][directory/] | directory/} filename

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	delete { <i>filesystem:[//module/][directory/] directory/</i> } <i>filename</i> Example: switch# delete bootflash:old_config.cfg	ファイルを削除します。ファイル システム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 Caution 1 つのディレクトリを指定している場合、 delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

ファイル内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [*filesystem:[//module/][directory/]*]*filename*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/][directory/]</i>] <i>filename</i> Example: switch# show file bootflash:test-results	ファイルの内容を表示します。

ファイル チェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするチェックサムを表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **show file** [*filesystem:[//module/][directory/]*]*filename* {*cksum | md5sum*}

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	show file [filesystem:[//module/]][directory/]filename {cksum md5sum} Example: switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum	ファイルのチェックサムまたは MD5 チェックサムを表示します。

ファイルの圧縮と解凍

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用してデバイス上のファイルを圧縮および圧縮解除できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **dir** [filesystem:[//module/]directory]]
2. **gzip** [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]filename
3. **gunzip** [filesystem:[//module/][directory/] | directory/]filename .gz

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) dir [filesystem:[//module/]directory]] Example: switch# dir bootflash:	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	gzip [filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename Example: switch# gzip show_tech	ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、.gz サフィックスが付けられます。
ステップ 3	gunzip [filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename .gz Example: switch# gunzip show_tech.gz	ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィックスは、.gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、サフィックスは .gz ではなくなります。

ファイルの最終行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

SUMMARY STEPS

1. **tail** *[filesystem:[//module/]][directory/]filename* *[lines]*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	tail <i>[filesystem:[//module/]][directory/]filename</i> <i>[lines]</i> Example: switch# tail ospf-gr.conf	ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 です。有効な範囲は 0 ～ 80 行です。

ファイルへの **show** コマンド出力のリダイレクト

show コマンド出力は、bootflash:、slot0:、volatile:、またはリモートサーバ上のファイルにリダイレクトできます。また、コマンド出力のフォーマットを指定することもできます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **terminal redirection-mode** {ascii | zipped}
2. **show-command** > *[filesystem:[//module/]][directory/] [directory /]]filename*

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) terminal redirection-mode {ascii zipped} Example: switch# terminal redirection-mode zipped	ユーザー セッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。
ステップ 2	show-command > <i>[filesystem:[//module/]][directory/] [directory /]]filename</i> Example: switch# show tech-support > bootflash:techinfo	show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。

ファイルの検索

特定のストリングで始まる名前を持つファイルを現在の作業ディレクトリとそのサブディレクトリで検索できます。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **cd** {filesystem:[//module/][directory] | directory}
3. **find filename-prefix**

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) cd {filesystem:[//module/][directory] directory} Example: switch# cd bootflash:test_scripts	デフォルト ディレクトリを変更します。
ステップ 3	find filename-prefix Example: switch# find bgp_script	指定したファイル名プレフィックスで始まるすべてのファイル名をデフォルトディレクトリとそのサブディレクトリで検索します。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。

ブートフラッシュのフォーマット

format bootflash: CLI コマンドを使用して、オンボードフラッシュメモリ (bootflash:) をフォーマットします。すべての仮想サービスをアクティブ解除し、もう一度実行してください (Deactivate all virtual-services and try again) というエラーメッセージが原因でコマンドがエラーになった場合は、**guestshell destroy** CLI コマンドを使用してゲストシェルの破棄し、次のように **format bootflash:** コマンドを再実行します。

```
switch# sh virtual-service list
Virtual Service List:

Name                               Status           Package Name
-----
guestshell+                        Activated        guestshell.ova

switch#

switch# guestshell destroy
You are about to destroy the guest shell and all of its contents. Be sure to save your
work. Are you sure you want to continue? (y/n) [n] y

switch# 2018 Jan 17 18:42:24 switch %$ VDC-1 %$ %VMAN-2-ACTIVATION_STATE: Deactivating
virtual service 'guestshell+'

```

```
switch#format bootflash:
```

アーカイブ ファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアはアーカイブ ファイルをサポートしています。アーカイブ ファイルを作成したり、既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加したり、アーカイブ ファイルからファイルを抽出したり、アーカイブ ファイル内のファイルのリストを表示したりすることができます。

アーカイブ ファイルの作成

アーカイブ ファイルを作成し、アーカイブ ファイルにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 未圧縮

デフォルト値は gzip です。

手順の概要

1. **tar create {bootflash: | volatile:} archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar create {bootflash: volatile:} archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list 例 : <pre>switch# tar create bootflash:config-archive gz-compress bootflash:config-file</pre>	アーカイブ ファイルを作成し、アーカイブ ファイルにファイルを追加します。ファイル名は英数字で指定します（大文字と小文字は区別されません）。最大文字数は 240 です。 absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブ ファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。 bz2-compress 、 gz-compress 、および uncompressed のキーワードは、アーカイブにファイルを追加するとき（または後で追加するとき）に使用する圧縮

	コマンドまたはアクション	目的
		ユーティリティと、ファイルを抽出するときに使用する解凍ユーティリティを決定します。アーカイブ ファイルに拡張子を指定しない場合、デフォルト値は次のようになります。 • bz2-compress の場合、拡張子は .tar.bz2 です。 • gz-compress の場合、拡張子は .tar.gz です。 • uncompressed の場合、拡張子は .tar です。 remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイル システムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。 verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。

アーカイブ ファイルへのファイルの追加

デバイス上の既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加できます。

始める前に

デバイス上でアーカイブ ファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. **tar append {bootflash: | volatile:} archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar append {bootflash: volatile:} archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list	既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加します。アーカイブ ファイル名では、大文字と小文字は区別されません。 absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブ ファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デ

	コマンドまたはアクション	目的
		フォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。 remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。 verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。

例

次に、既存のアーカイブ ファイルにファイルを追加する例を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブ ファイルからのファイルの抽出

デバイス上の既存のアーカイブ ファイルにファイルを抽出できます。

始める前に

デバイス上でアーカイブ ファイルを作成しておきます。

手順の概要

1. **tar extract** {bootflash: | volatile:} archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: | volatile:}[/directory-name]] [verbose]

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tar extract {bootflash: volatile:} archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose] 例 : <pre>switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz</pre>	既存のアーカイブファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。 keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。

	コマンドまたはアクション	目的
		screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。 to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名は、240 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。

アーカイブ ファイルのファイル名の表示

tar list コマンドを使用して、アーカイブ ファイル内のファイルの名前を表示できます。

tar list {bootflash: | volatile:} archive-filename

アーカイブ ファイル名では、大文字と小文字は区別されません。

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

SSD の再パーティション化

SSD 再パーティション化を構成して、設定ストレージの容量を増やすことができます。これにより、ログフラッシュストレージのサイズも増加します。この構成はシステムのリロード後に有効になり、追加の **cfg** および **logflash** ストレージ スペースによってブートフラッシュのサイズが減少する可能性があります。

SSD の再パーティション化を実行する前に、すべてのソフトウェア イメージ、構成、および個人データのバックアップを実行することをお勧めします。

リリース 10.5(1) 以降、スイッチ上の SSD パーティション サイズを予想される設定サイズに一致するように自動的に検出できます。ブートアップ中に **show logging log** または **show logging nvram** コマンドに情報 **syslog** が表示され、スイッチが予期しない SSD パーティション分割サイズで起動されたことを示します。

```
%PLATFORM-2-SSD_PARTITION_CHECK: Incorrect <device> partition size detected - please
contact
Cisco TAC for additional information
```

拡張パーティション スキームは、64 GB SSD を搭載したプラットフォームではサポートされていません。

手順の概要

1. system flash sda resize

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	system flash sda resize 例 : <pre>switch# system flash sda resize ? <CR> extended Cfg=1GB, logflash=39GB standard Cfg=64MB, logflash=4 8GB</pre>	永続ストレージのサイズを新しいスキームに変更します。

例

次に、標準サイズ変更の例を示します。

```
switch# system flash sda resize standard
```

```
!!!! WARNING !!!!
```

```
Attempts will be made to preserve drive contents during
the resize operation, but risk of data loss does exist.
Backing up of bootflash, logflash, and running configuration
is recommended prior to proceeding.
```

```
!!!! WARNING !!!!
```

```
current scheme is
sda          8:0      0 119.2G  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M  0 part
|-sda2       8:2      0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0  114.5G  0 part
/isan/vdc_1/virtual-instance/guestshell+/rootfs/bootflash
|-sda5       8:5      0    64M  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0    64M  0 part /mnt/cfg/1
`-sda7       8:7      0     4G  0 part /logflash

target scheme is
sda          8:0      0  64G|120GB|250GB  0 disk
|-sda1       8:1      0    512M  0 part
|-sda2       8:2      0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0    128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0   110.5G  0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0    64M  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0    64M  0 part /mnt/cfg/1
|_sda7       8:7      0     8G  0 part /logflash

Continue? (y/n)  [n] y
```

```
A module reload is required for the resize operation to proceed
Please, do not power off the module during this process.
```

次に、拡張サイズ変更の例を示します。

```
switch# system flash sda resize extended
```

```
!!!! WARNING !!!!
```

```
Attempts will be made to preserve drive contents during
the resize operation, but risk of data loss does exist.
Backing up of bootflash, logflash, and running configuration
is recommended prior to proceeding.
```

```
!!!! WARNING !!!!
```

```
current scheme is
sda          8:0      0 119.2G  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M  0 part
|-sda2       8:2      0    32M  0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M  0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0 110.5G  0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0    64M  0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0    64M  0 part /mnt/cfg/1
|-sda7       8:7      0     8G  0 part /logflash
```

```
target scheme is
sda          8:0      0 120GB|250GB  0 disk
|-sda1       8:1      0   512M      0 part
|-sda2       8:2      0    32M      0 part /mnt/plog
|-sda3       8:3      0   128M      0 part /mnt/pss
|-sda4       8:4      0    rem      0 part /bootflash
|-sda5       8:5      0   1.0G      0 part /mnt/cfg/0
|-sda6       8:6      0   1.0G      0 part /mnt/cfg/1
|-sda7       8:7      0    39G      0 part /logflash
```

```
Continue? (y/n)  [n] y
```

```
A module reload is required for the resize operation to proceed
Please, do not power off the module during this process.
```

Tech-Support コマンドの有効化または無効化

tech-support コマンドを有効または無効にするには、次の手順を実行します。

手順の概要

1. **system tech-support blocked-commands sample_list**
2. **clear system tech-support blocked-commands**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	system tech-support blocked-commands sample_list 例 : <pre>switch# system tech-support blocked-commands sample_list Successfully enabled tech-support blocked commands list</pre>	テクニカルサポートのブロックされたコマンドのリストを有効にします。 このコマンドは、 show tech-support details [time-optimized] 、 show tech-support all [time-optimized] 、および show tech-support commands の sample_list に記載されている show コマンドの実行をブロックします。上記の show-tech コマンドでは、リストされているコマンドは実行されず、スキップされます。
ステップ 2	clear system tech-support blocked-commands 例 : <pre>switch# clear system tech-support blocked-commands Successfully cleared tech-support blocked commands list</pre>	tech-support ブロック コマンドリストをクリアします。

テクニカル サポートでブロックされた CLI の表示

次のコマンドを使用して、テクニカルサポート **blocked-commands** リストのステータスを確認できます。

手順の概要

1. **show system tech-support blocked-commands status**
2. **run bash cat /bootflash/sample_list**

手順の詳細

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show system tech-support blocked-commands status 例 : <pre>switch# show system tech-support blocked-commands status Tech-support blocked commands list status: Disabled switch# show system tech-support blocked-commands status Tech-support blocked commands list status: Enabled</pre>	テクニカルサポート ブロック コマンドリストのステータスを表示します。 コマンドリストが有効になっている場合は、ファイル名が表示されます。

	コマンドまたはアクション	目的
	Blocked command file: /bootflash/sample_list Last modified time: Thu Dec 7 07:03:02 2023	
ステップ 2	run bash cat /bootflash/sample_list 例 : <pre>switch# run bash cat /bootflash/sample_list show version show inventory show module show tech-support snmp</pre>	ブロックされたコマンドファイルを表示します。 • ファイルの最大長は 128 です。 • これは EXEC モード コマンドですが、blocked-commands は、ファイルが /bootflash に保持され、すべてのリロードにわたって保持される限り有効です。 • ファイルが削除された場合でも、blocked-commands の状態は有効のままですが、ファイルが削除されているので効果はありません。 • このファイルには読み取り権限が必要です。

ファイル システムの使用例

この項では、Cisco NX-OS デバイスでファイル システムを使用する例について説明します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
 4096   Oct 03 23:55:55 2013   .patch/
...
 16384   Jan 01 13:23:30 2011   lost+found/
297054208   Oct 21 18:55:36 2013   n9000-dk9.6.1.2.I1.1.bin
...

Usage for bootflash://sup-remote
1903616000 bytes used
19234234368 bytes free
21137850368 bytes total
```

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイス上のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルト ファイル システム内のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、usb1:ファイルシステムのルートディレクトリから、samplefile というファイルを mystorage ディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、カレント ディレクトリ レベルからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```

次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュからスタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:nx-os-image bootflash://sup-2/nx-os-image
```

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
```

```
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config:
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```

copy コマンドを使用して、bootflash: ファイル システムと FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバーとの間でファイルのアップロードおよびダウンロードを行うこともできます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイル システムから削除できます。

Before you begin

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

SUMMARY STEPS

1. (Optional) **pwd**
2. (Optional) **dir** [filesystem :[/module/][directory]]
3. **rmdir** [filesystem :[/module/]]directory

DETAILED STEPS

Procedure

	Command or Action	Purpose
ステップ 1	(Optional) pwd Example: switch# pwd	現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	(Optional) dir [filesystem :[/module/]][directory] Example: switch# dir bootflash:test	カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [filesystem :[/module/]][directory] Example: switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ファイル内容の表示

外部フラッシュ デバイスのファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file usb1:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

現在のディレクトリに存在するファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイル チェックサムの表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮と解凍

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
```

show コマンド出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイル システム上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュ メモリ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > usb1:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルにダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
Building Configuration ...
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
Usage for volatile://
 1527808 bytes used
 19443712 bytes free
```

```
20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルト ディレクトリ内でファイルを検索する例を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg  
/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied  
./smm_shm.cfg  
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg  
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg
```

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。